

厚生労働科学研究費補助金
(難治性疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患等政策研究事業
(免疫アレルギー疾患政策研究分野))
分担研究報告書

小児アレルギーエドゥケーター(PAE)によるアトピー性皮膚炎患者への治療初期の患者教育の効果に関する研究

研究分担者	赤澤 晃	東京都立小児総合医療センターアレルギー科 部長
研究協力者	益子 育代	東京都立小児総合医療センター看護部 小児アレルギーエドゥケーター(PAE)
	古川 真弓	東京都立小児総合医療センターアレルギー科 医師
	小田嶋 博	国立病院機構福岡病院 副院長
	金子 恵美	国立病院機構福岡病院 看護部 PAE
	高増 哲也	神奈川県立こども医療センターアレルギー科 医長
	田阪 祐子	神奈川県立こども医療センター 看護部 PAE

研究要旨

アレルギー疾患の良好なコントロール、全国のアレルギー医療の均てん化のためには、医師以外のアレルギー専門メディカルスタッフの養成と認定が必要である。本研究では、アレルギー専門メディカルスタッフの有用性・有効性について検討を行った。

方法: 1. 小児アレルギーエドゥケーター(PAE)によるアトピー性皮膚炎患者への治療初期の患者教育の効果に関する研究: 多施設共同無作為前方視的比較研究により小児アトピー性皮膚炎の患者指導をPAEと医師の指導で比較をおこないPAEの有効性について調査する。2. 小児アレルギー診療における患者教育の現状調査: 施設、医師、看護師にアレルギー疾患の患者教育に関して実態調査、意識調査を実施する。

結果: 1. は、3施設において実施する体制ができ、今年度末で51例がエントリーし、終了している。2. は、調査システムができあがり、倫理委員会の承認を得た。次年度実施予定。

結論: アレルギー専門メディカルスタッフの有用性・有効性を示すことで、アレルギー疾患対策基本法でも提唱されているアレルギー医療の均てん化に貢献できることが期待できる。

A. 研究目的

小児のアレルギー疾患は、治療管理ガイドラインに沿った治療が適切に実施されれば、症状がほとんどない良好なコントロール状態を維持することが可能となった。しかし、適切な治療を提供していても、患者・家族の自己管理が不十分であったり、治療の自己中断によるコントロール不良の患者も多い。この問題には、専門性の高い看護師

による患者教育が必須である。すでに、欧米では専門看護師によるアレルギー患者教育の成果が認められており、日本でも平成21年度から、日本小児臨床アレルギー学会において「小児アレルギーエドゥケーター(以下PAE)」制度を開始し、専門性の高い看護師の養成を開始した。海外の先行研究では、「退院後の気管支喘息」の対応について医師と専門看護師の対応を比較したところ効果が同

等であったことが認められている (Nathan., et al 2006)。また、アトピー性皮膚炎において、専門看護師による時間をかけた患者教育が有効であることが指摘されている (Moore., et al 2006)。

本研究では小児アレルギー診療における患者教育の現状調査とアトピー性皮膚炎患者に対する患者教育が、医師による患者教育と比較して高い治療効果をもたらせるかどうかを検証する。

B. 研究方法

1. 小児アレルギーエデュケーター (PAE) によるアトピー性皮膚炎患者への治療初期の患者教育の効果に関する研究

初診で受診した年齢 6 ヶ月から 10 歳未満のアトピー性皮膚炎の患者およびその保護者を対象とする。採用条件、除外基準を満たした場合にインフォームドコンセントを取得し、重症度、年齢、施設での層別ランダム化比較試験を行う。2 群のうち、A 群は PAE による患者教育群、B 群は医師による患者教育群とする。治療薬は、ガイドラインに基づく標準治療とスキンケアを行う。

指導内容は、医師、PAE ともに指導項目は統一する。初回介入では、アトピー性皮膚炎ハンドブック (環境再生保全機構発行) を用いて、治療、自己管理に必要な知識を含め、スキンケアの指導を行う。2、3 回目は、養育者が記載したセルフケアチェック表でチェックされた内容を中心に指導する。なお、セルフケアチェック表は、4 回目も評価のため記載してもらう。

A 群 (PAE による患者教育) の患者教育の初回は、医師の診察終了後に、PAE よりスキンケアに関する個別指導 (40 分以上) を行う。個別指導後、処方を行う。2、3 回目は PAE が診察前に指導することとする。

B 群 (医師による患者教育) の患者教育の初回は、医師が診察および患者教育を行う。

評価項目として、皮膚の写真による SCORAD、Modified Nottingham Eczema Score での重症度評価。DFI、QPCAD、POEM、軟膏使用量、セルフチェック表。

評価時期は、初回、2 週間、6 週間、10 週間の 4 回。

目標症例数は、各群 60 例ずつ、合計 120 例と設定する。

初年度：この研究は、すでに都立小児総合医療セ

ンターアレルギー科で開始され、国立病院機構福岡病院との協同研究がはじまっている。研究計画書を多施設研究として、参加施設を募集する。各施設の倫理審査、研究資材等の準備が完了次第、開始する。

2 年度：参加施設での研究を実施、一部データの解析をする。

3 年度：研究の実施。データのまとめを行う。

2. 小児アレルギー診療における患者教育の現状調査

一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会会員を対象に、施設対象調査として、医療現場における小児アレルギー患者教育の実態調査、医師対象に、医療現場における小児アレルギー患者教育の意識調査、看護師対象に医療現場における小児アレルギー患者教育の意識調査を実施する。調査方法は、電子メールで依頼を行い、web 画面で回答する無記名の調査方法で実施する。調査項目は、2012 年度に独立行政法人環境再生保全機構の調査研究で、分担研究者の赤澤らが実施した調査方法、調査項目と同様の内容の調査を実施して、その変化も含めて検討する。

初年度：質問用紙を作成。倫理委員会承認。

2 年度：調査の実施。解析。終了。

(倫理面への配慮)

本研究は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則 (2008 年ソウル修正) および、臨床研究に関する倫理指針 (2008 年 7 月 31 日 全部改訂 厚生労働省) に従い、本研究実施計画書を厳守して実施する。本研究に先立ち、実施し施設における倫理審査委員会の審査・承認を受けなければならない。研究期間を通じ、倫理委員会の審査の対象となる文書が変更または改訂された場合 (軽微な変更または改訂を除く) には、再審議し、承認を受けた上で本試験を実施する。

C. 研究結果

1. 小児アレルギーエデュケーター (PAE) によるアトピー性皮膚炎患者への治療初期の患者教育の効果に関する研究

研究への新規参加施設として、神奈川県立こども医療センターアレルギー科、国立成育医療研究センターアレルギー科、国立病院機構三重病院に

参加依頼をしたところ、神奈川県立こども医療センターアレルギー科が協力施設として参加することになった。他の2施設では、小児アレルギーエドクターが専任で外来指導を担当する事ができにくい、病院内の看護システムの問題があった。

現時点で、51例がエントリーして、完了している。

2. 小児アレルギー診療における患者教育の現状調査

調査は、一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会会員の医師、看護師を対象に実施する。今回は、2012年に旧名称の同一学会である日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会会員を対象に実施している。

実態調査として、会員の診療科責任者向け調査(資料1)意識調査として医師向け(資料2)看護師向け(資料3)を作成し、都立小児総合医療センター倫理委員会にて承認を取得した。

日本小児臨床アレルギー学会理事会に調査依頼を行い、承認を取得した。

実施方法として、会員への電子メールとweb回答システムを日本ビジネスコンピュータに依頼し作成した。

D. 考察

多くのアレルギー疾患患者の症状が適切にコントロールされ喘息死ゼロ、急性増悪による救急受診・入院が減少し、食物アレルギー等によるアナフィラキシーが減少するためには、適切な医療として患者教育がされなければいけないことはアレルギー疾患に限らず全ての疾患において明白である。しかし、これまで患者教育に関する理論やシステムは、十分とは言えず、アレルギー疾患対策基本法においても、患者教育の担い手として医師以外のメディカルスタッフの重要性が提言され、その養成をしていくことになっている。本研究では、アレルギー疾患対策基本法に先駆けて日本小児臨床アレルギー学会が養成・認定を行ってきた小児アレルギーエドクター(PAE)による患者教育の有用性について検討を行っている。小児アトピー性皮膚炎患者への疾患の説明、スキンケア、軟膏塗布、日常管理等の指導を専門とする医師と同等、あるいはそれ以上に高いコントロール状態を維持できるかを検証することで、アレルギー

医療における医師以外の専門メディカルスタッフの重要性と有用性を示していく。

患者教育の現状調査では、前回2012年に医療施設の実態と医師、看護師の意識について調査を行った。今回同様の調査を実施し、6年間でどの程度変わったか、医師、看護師の意識が変わったかを比較する予定である。

E. 結論

アレルギー医療におけるメディカルスタッフによる患者教育の有用性と有効性について検討をおこなっている。メディカルスタッフによる患者教育のシステムができることで、多くのアレルギー専門メディカルスタッフのよる患者教育が実施されることで、アレルギー疾患対策基本法で提言されている、全国のアレルギー医療の均てん化に貢献できる。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 赤澤晃、渡辺博子、古川真弓、佐々木真利、吉田幸一、小田嶋博、海老澤元宏、藤澤隆夫; 5歳未満で発症した小児気管支喘息児の5年間の経過。アレルギー、2018;67:53-61
2. 赤澤晃: 環境再生保全機構委託業務アレルギー専門メディカルスタッフのスキルアップのための教育研修プログラムの開発とその検証に関する研究報告書。平成29年度、2018

2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定も含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

医療現場における小児アレルギー患者教育の実態調査 施設代表医師がお答えください

本日はお忙しい中、調査にご協力いただきありがとうございます。

貴施設で行われている 20 歳未満の患者を対象とした、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーに関する患者教育についてお尋ねします。

基本情報		
貴施設についてお尋ねします。当てはまるものにチェック☑してください。		
施設	：クリニック・医院	：病院 { ：小児病院 (: 200 床以上 / : 200 床以下) ：一般病院 (: 200 床以上 / : 200 床以下) 下)
	アレルギー科の有無	：あり / : なし
小児アレルギー患者数	月間の小児アレルギー患者数 ^(注1) (カルテベース)をお書き下さい。	
	外来 / 月	入院 / 月
	人	人

注1) 小児アレルギー患者：20 歳未満、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー

下記の患者教育の項目に対して、行っている場合は1~3（3：医師が行っている、2：看護師が行っている、1：両者で行っている）を、行っていない場合は0（0：行っていない）を各項目右側の空欄にお書き下さい。

また、必要に応じてその指導方式にチェックを入れてください

【1】気管支喘息 教育・指導内容	医師 看護師 両者 行っていない	3 2 1 0
例：体温計による発熱の評価	<input type="checkbox"/>	2
1.病態生理に関する説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2.長期管理薬の効果や副作用についての説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3.吸入補助具を用いた吸入指導 方式（ <input type="checkbox"/> ：口頭のみ説明 <input type="checkbox"/> ：パンフレットを使った説明 <input type="checkbox"/> ：吸入補助具を使ったモデリング <input type="checkbox"/> ：実際に補助具を使ってできるかどうかまで確認する）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4.スパイロメーターによる呼吸機能の説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5.質問紙（JPAC、またはC-ACT等）や喘息日誌（PEF含む）を用いた喘息コントロール状態の説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6.喘息日誌の書き方と読み方の指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7.ピークフローメーターの指導 方式（ <input type="checkbox"/> ：口頭のみ説明 <input type="checkbox"/> ：パンフレットを使った説明 <input type="checkbox"/> ：PEFを用いてモデリングのみ <input type="checkbox"/> ：実際にやってもらい出来ているかまで確認する）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8.発作治療薬の使い方（タイミング 回数など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9.発作時の医療機関受診のタイミング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10.pMDIやDPIの直接行う吸入の指導 方式（ <input type="checkbox"/> ：口頭のみ説明 <input type="checkbox"/> ：パンフレットを使った説明 <input type="checkbox"/> ：吸入の練習器具を使ったモデリング <input type="checkbox"/> ：実際に練習器具を使いできるかどうかまで確認する）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11.環境整備の具体的な情報提供（ダニ、布団の扱い、掃除の仕方等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12.トリガーと予測される悪化因子の回避方法についての指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13.コントロール不良な児に対する原因の特定と対応の指導（悪化因子やアドヒアランス等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14.保育所や幼稚園、学校と連携できるような調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
-その他に患者指導・教育を行っていることがあればお書き下さい-		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【2】アトピー性皮膚炎 教育・指導内容	医師 看護師 両者 行っていない	3 2 1 0
例：体温計による発熱の評価	<input type="checkbox"/>	2
1.病態生理に関する説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2.薬物療法に関する説明（ステロイド外用薬、免疫抑制外用薬の作用、副作用について）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3.治療の見通し、方法についての説明（ステロイドの減量方法、コントロールの仕方について）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4.皮膚の洗い方についての指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
方式（ <input type="checkbox"/> ：口頭による説明 <input type="checkbox"/> ：パンフレットを使った説明 <input type="checkbox"/> ：模型などを用いて洗い方を実演 <input type="checkbox"/> ：実際に洗って指導）		
5.外用薬の塗り方についての指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
方式（ <input type="checkbox"/> ：口頭による説明 <input type="checkbox"/> ：パンフレットを使った説明 <input type="checkbox"/> ：模型などを用いて塗り方を実演 <input type="checkbox"/> ：実際に塗って指導）		
6.コントロール不良な児に対する原因の特定と対応の指導（悪化因子やアドヒアランス等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 保育所や幼稚園、学校と連携できるような調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
-その他に教育・指導を行っていることがあればお書き下さい-		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【3】食物アレルギー 教育・指導内容	医師 看護師 両者 行っていない	3 2 1 0
例：体温計による発熱の評価	<input type="checkbox"/>	2
1.病態生理に関する説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2.食物負荷試験のオリエンテーション	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3.栄養指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4.アドレナリン自己注射の指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
方式（ <input type="checkbox"/> ：簡単な説明 <input type="checkbox"/> ：パンフレットを用いた説明 <input type="checkbox"/> ：トレーナーを用いて実際に練習しできているのを確認する）		
5.症状出現時の対応（内服薬 受診のタイミングなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6.誤食予防のための日常生活の指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 保育所や幼稚園、学校と連携できるような調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
-その他に教育・指導を行っていることがあればお書き下さい-		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

以上です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

医療現場における小児アレルギー患者教育の意識調査

所属されている病院についての質問です。		
先生の所属されている医療施設は、どれにあてはまりますか？		
<small>* 下記の項目であてはまるものにチェック☑してください。</small>		
: 総合病院 小児科	: 小児専門病院	: 小児科診療所
: その他 ()		
先生の施設には、小児アレルギーエドクターはいますか？		
<small>* 小児アレルギーエドクターとは、日本小児臨床アレルギー学会が資格認定している専任のメディカルスタッフを指します。</small>		
: いる (人) * 人数をご記入下さい		
: いない		

受診されている患者数についての質問です。	
月間のおよその患者数 (カルテベース) でお書き下さい。	
<small>* の中に数字をご記入下さい</small>	
外来 / 月	入院 / 月
約 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 人	約 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 人

先生ご自身についての質問です。	
<small>* 下記の項目であてはまるものにチェック☑をしてください。</small>	
月間であなたが担当している、小児アレルギー患者*のおよその人数をご記入ください。	
外来 / 月	入院 / 月
: 約 0 ~ 10 人 : 約 11 ~ 100 人	: 約 0 ~ 10 人 : 約 11 ~ 100 人
: 約 101 ~ 200 人 : 約 201 人以上	人 : 約 101 ~ 200 人 : 約 201 人以上
先生の臨床歴は何年になりますか？ (数字をご記入ください)	
<input type="text"/> <input type="text"/> 年	
日本アレルギー学会アレルギー専門医 (小児科) をお持ちですか。	
あり なし	

* 小児アレルギー患者: 20歳未満、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー

現在の小児アレルギー患者*の診療における患者教育・指導について質問します

*小児アレルギー患者：20歳未満、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの患者とします。

(1) 小児アレルギー治療において患者教育・指導は、どのくらい重要とご思いますか？

下記の項目であてはまるものにチェック☑をしてください。

[: a 大変重要である : b 重要である] -----> (2) にお進みください(a,b)

[: c あまり重要でない : d 全く重要でない] -----> 下記点線枠の質問にお答えください(c,d)

【あまり重要でない】【重要でない】と答えた方に質問です。重要でないと思われる理由は何ですか？（複数回答可）

: 指導が必要な患者が少ないから : 患者に教育・指導しても、うまくいかないから

: その他（下記の空欄にその他の理由をご記入ください）

理由：

以上でおしまいです。お忙しい中ご協力ありがとうございました。

(2) 貴施設で、患者教育をどのくらい行っていますか？

下記の項目で当てはまる項目にチェック☑をしてください。

[: a 十分に行っている : b 行っている] → (3) にお進みください(a,b)

[: c あまり行っていない : d 全く行っていない] → 下記点線枠の質問にお答えください(c,d)

【あまり行っていない】【全く行っていない】と答えた方に質問です(複数回答可)
(患者教育が)【重要と思う】けれども、【行っていない】理由は何ですか？

- : 教育が必要な患者が少ないから : 患者に教育しても、効果が少ないから
- : 収益に結びつかないから
- : 先生ご自身の外来診療時間・人材が不足しているから
- : 患者教育に対する組織の理解不足(要望しても人員配置を行ってくれない)
- : その他(下記の空欄にその他の理由をお書きください)

理由:

(3) にお進み下さい。

(3) 看護師が患者教育・指導をすることが望ましいと思いますか？

: 望ましいと思う 次のページ(4)にお進み下さい。

: 望ましいと思わない 下記点線の枠内の質問にお答えください。

【望ましいと思わない】と答えた方に質問です(複数回答可)

(患者教育が)【重要と思う】けれども、看護師の教育・指導が【望ましいと思わない】理由は何ですか？

- : 患者教育は医師の業務だから : 看護師の指導技術の不足
- : 看護師の知識不足 : 看護師への信頼不足(指導に不安を感じる)
- : 患者教育ができる看護師がないから : 看護師が患者教育にかける時間の不足
- : 収益に結びつかないから
- : その他(下記の欄にその他望ましく思わないと感じていることをお書きください)

理由:

以上でおしまいです。お忙しい中ご協力ありがとうございました。

(4) 実際に看護師が患者教育・指導をどのくらい行っていますか？

〔 : a 十分に行っている : b 行っている 〕 → (5) にお進みください(a,b)

〔 : c あまり行っていない : d 全く行っていない 〕 → 下記点線枠の質問にお答えください(c,d)

【あまり行っていない】【全く行っていない】と答えた方に質問です。

(看護師による患者教育が)【望ましいと思う】けれども、【行っていない】理由は何ですか？

- : 看護師の知識不足
- : 看護師の指導技術の不足
- : 収益に結びつかないから
- : 看護師の信頼不足 (指導に不安を感じる)
- : 患者教育ができる看護師がいない
- : 看護師が患者教育にかける時間の不足)
- : 教育・指導できる場所がないから
- : 患者教育に対する組織の理解不足 (要望しても人員配置を行ってくれない)
- : 臨機応変の対応をしてくれないから (応用が利かない)
- : その他 (下記の欄にその他の理由をお書きください)

理由:

以上でおしまいです。お忙しい中ご協力ありがとうございました。

(5) 看護師が患者教育・指導を行うことによるメリットは何ですか？ (複数回答可)

- : 医師の診察時間が短くなる
- : 患者養育者の満足度があがる
- : 医師の把握していない情報が得られる
- : 患者の治療薬の実施率があがる
- : わかりやすく細やかに指導できる
- : 看護師にやりがい生まれる
- : 患者の吸入やスキンケア等手技が上達する
- : 患者養育者からの不安の訴えが少なくなる
- : その他 (下記の空欄にそのメリットをお書き下さい)

メリット:

看護師が患者教育・指導を行うことによるデメリットは何ですか？

- : 患者に間違った情報を伝えてしまう
- : 他の患者の待ち時間が増えてしまう
- : 効率性が悪く診療報酬に不利益が生じる
- : 診療する部屋・場所がなくなる
- : 他の看護業務に支障をきたす。
- : その他 (下記の空欄にそのデメリットをお書き下さい)

デメリット:

以上でおしまいです。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

医療現場における小児アレルギー患者教育の意識調査

所属されている病院について質問します。			
あなたの所属されている医療施設は、どれにあてはまりますか？			
*下記の項目で当てはまるものにチェック☑してください。			
: 総合病院小児科 病棟	: 総合病院 小児科 外来	: 小児専門病院 病棟	
: 小児専門病院 外来	: 小児科診療所	: 看護教育機関	: その他 ()

受診されている患者数についての質問です。			
月間のおよその患者数 (カルテベース) でお書き下さい。			
* の中に数字をご記入下さい			
外来 / 月		入院 / 月	
約	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	約	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
	人		人

あなたご自身について質問します。			
*下記の項目で当てはまるものにチェック☑してください。			
月間であなたが担当している、およその小児アレルギー患者数をお書き下さい(注1)			
外来 / 月		入院 / 月	
: 0~10人	: 11~30人	: 0~10人	: 11~30人
: 31~50人	: 51人以上	: 31~50人	: 51人以上
あなたの臨床歴は何年になりますか？(数字をご記入ください)			
		<input type="text"/> <input type="text"/>	年
あなたは、小児アレルギーエドゥケーター*の資格はお持ちですか？			
*小児アレルギーエドゥケーターとは、日本小児臨床アレルギー学会が資格認定している専任のメディカルスタッフを指します。			
: もっている		(年取得) *取得年をお書き下さい	
: もっていない		: 取得しようと考えている	: 特に必要ない
		: 知らなかった)	

(注1) 小児アレルギー患者: 20歳未満、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー *検査入院は除く

小児アレルギー患者*の診療における患者教育・指導について質問します。

*小児アレルギー患者: 20歳未満、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの患者とします。

(1) 小児アレルギー治療において患者教育・指導は、どのくらい重要と思いますか？
下記の項目で当てはまるものにチェック☑をしてください。

〔 : a 大変重要である : b 重要である 〕 -----> (2) にお進みください(a,b)

〔 : c あまり重要でない : d 全く重要でない 〕 -----> 下記点線枠の質問にお答えください(c,d)

【あまり重要でない】【全く重要でない】と答えた方に質問です。

必要でないと思われる理由は何ですか？（複数回答可）

: 指導が必要な患者が少ないから

: 患者に教育・指導を行っても治療効果にあまり影響しないから

: その他（下記の空欄にその他の理由をご記入ください）

理由：

(2) にお進みください。

(2) あなたは看護師が患者教育・指導を行うことが望ましいと思いますか？

下記の項目で当てはまるものにチェック☑してください。

:望ましいと思う 次ページ (3) へお進み下さい。

:望ましいと思わない 下記点線の枠内の質問にお答えください。

【望ましいと思わない】と答えた方に質問です。望ましいと思わないと思う理由は何ですか？

: 患者教育・指導は医師の業務だから : 他の業務が多すぎて指導時間の確保が難しい

: その他（下記の空欄にその他の理由をお書きください）

理由：

以上でおしまいです。お忙しい中ご協力ありがとうございました。

(3) 実際に看護師が患者教育・指導をどのくらい行っていますか？

下記の項目で当てはまるものにチェック☑してください。

[: a 十分に行っている : b 行っている]-----> 下記(4)にお進みください(a,b)

[: c あまり行っていない : d 全く行っていない]-----> 下記点線枠の質問にお答えください(c,d)

【あまり行っていない】【全く行っていない】と答えた方に質問です。（複数回答可）

（看護師による患者教育が）【望ましいと思う】けれども、【行っていない】理由は何ですか？

- ：人材の不足（患者教育ができる看護師がいない）
- ：看護師の知識不足
- ：看護師の指導技術の不足
- ：医師からの依頼がない
- ：上司・及び同僚の理解が少ないから
- ：患者に指導しても、効果が少ないから
- ：指導はできるが経験が不足しているから
- ：他の業務が多すぎて指導時間の確保が難しいから
- ：その他（下記の欄にその他理由があればお書きください）

理由：

以上でございます。お忙しい中ご協力ありがとうございました。

（４）看護師が患者教育・指導を行うことのメリットは何ですか？

下記の項目で当てはまるものにチェック☑してください（複数回答可）

- ：患者の治療効果があがる
- ：患者の治療スキルあがる
- ：患者の満足度があがる
- ：細やかに指導できる
- ：患者の治療薬に対する実施率があがる。
- ：患者の不安がやわらぐ
- ：子どもにわかりやすく説明できる
- ：実践的に指導できる
- ：患者が医師には話にくいことを訴えや情報を得ることができる
- ：その他（下記の空欄にそのメリットをお書き下さい）

メリット：

以上でございます。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

